

令和8年度 第7回まちづくりふれあい懇談会記録書

- 1 日 時 令和8年8月20日（木）午後6時30分～7時47分（77分）
- 2 場 所 藻琴研修センター 多目的ホール
- 3 出席者 一般出席者 11人
網走市出席者 8人（市長、
企画総務部長、市民環境部長、建設港湾部長、
学校教育部長、商工労働課長、企画調整課長、
広報広聴係長）
町連等出席者 4人（会長、副会長、理事、社会福祉協議会職員）
計 23人
- 4 議事進行 理事
- 5 進行記録
18:30 開会
18:30 市長あいさつ
18:35 町連副会長あいさつ
18:37 テーマ(1)小中学校の適正規模・適正配置の検討について
19:13 テーマ(2)太陽光発電施設の適正な設置及び維持管理に関する
ガイドラインの策定について
19:21 テーマ(3)どこバスについて
19:34 その他
19:45 市長あいさつ
19:47 閉会

6 質疑など

【テーマ（１）小中学校の適正規模・適正配置の検討について】

▼参加者	資料の3校案は決定事項ではないと言われたが、決定事項のように感じる。 本当に3校でないと駄目なのか。
（学校教育部長）	教育委員会の案として、3校を考えたところ。 理由としては、少子化が続いていく中で、義務教育学校2校でもいいのではという話もあるが、人数が多いクラスに馴染めない子等のために、ある程度人数の少ない学級を用意した小規模特認校を合わせて3校体制とした。 5月から各地域で意見を聞く会を行い、郊外地域からは、通学時間の問題が課題として上がっているので、そういった点を踏まえて、学校再編検討協議会の中で十分に議論を重ねて、方向性を定めていきたいと考えている。
▼参加者	小規模特認は郊外に1校設けるのか。街中に設けるのか。
（学校教育部長）	2年前から、呼人小中学校が小規模特認校となっているが、呼人の学校を残すのか、他の既存の学校を使うのかは、これからの協議。
▼参加者	噂で、呼人に決まったような話を聞いたので、確認させていただいた。
（学校教育部長）	そういうお話が若干聞こえてきているが、決定しているわけではなく、呼人の懇談会や、意見を聞く会でも説明をさせていただいており、必ず呼人が残るというわけではない。
▼参加者	呼人が小中学校じゃなくて「学園」になると聞いたが、どういう意味なのか。
（学校教育部長）	そういう話は届いていないが、考えられるとすれば、現在の呼人小中学校が小中併置型の学校であるが、例えば、他地域の義務教育学校の名称が「ゆうべつ学園」や「芭露学園」などの名

称となっているので、義務教育学校になれば、学園という名称になるのでは、という話かと思う。

▼参加者

6月に教育委員会の説明会があったが、その中で学校の統廃合問題で参加者から出された意見が、今回、何も反映されていない。

住民の声を聞いて、今後進めていくという時に、懇談会や説明会でどういう意見が出て、どういう検討をしてるのかということ、参加者に示すのが本来のやり方では。

学校統廃合は、町が存続するかどうかの切羽詰まった課題で、みんな心配して参加したが、出された声は何も出ていないということは、言い方は悪いが、参加した方の声が無視されているような感じがする。

(学校教育部長)

6月に東部・南部地域で意見を聞く会を実施し、様々な意見をいただいた。

出された意見については、学校再編検討協議会の中で全て伝えている。また、意見に対して市が答えた内容なども、全て市のホームページで公開をしていく考えであり、決して声を無視していることはない。

ただ、この懇談会に限っては、同じ内容のもので説明をさせていただいており、意見や質問には個別に答えている状況。

▼参加者

本当に住民の理解を得て進めていくと考えるなら、説明会から2ヶ月以上経っているので、出された重要な声について全く触れないのは、地域住民の声を大事にしていると誤解されても仕方ないのではと感じる。

自分も白鳥台小学校卒業だが、学校や保育園があることで、年に1回、地域のイベントが開かれ、皆さん楽しみにしている。学校がなくなるということは、住民が残っても、地域自体がなくなっていくこと。子どもの声がなくなっていくことは死活問題だと感じている。

インターネットで調べたところ、国の政策として全国的に小中学校の統廃合が、地域の声を無視して一方的に文科省の元に進められており、住民から切実な声が寄せられているというのを見た。

前回の会議でも発言したが、国が全国的にやっているから市もやる、のではなく、網走にあったやり方を考えてほしい。

住民の立場でどう地域づくりをするか、その中で学校の果たし

ている役割は何なのかが、今日の説明の中にある。
自分の祖父が北海道に来たとき、最初に、自分たちの生活の基盤をつくったあと、次に学校をつくった。
子供たちが通って学んで、地域を引き継ぎ支えられるようにするために、学校をつくってきており、地域から学校がなくなるということは、北海道に夢や希望を持って入ってきた人たちの思いをなくすことになる。
そこを考えるのが市政を担う市長であり、役所ではないかと思う。
今日の会議では、住んでいる住民の心や声への思いが感じられず、行政が進めることなんだから従ってください、と感じる。

北浜の懇談会は出られなかったが、浦士別や音根内の子どもが白鳥台小学校に30分かけて通っており、統合されて、市街地の学校への通学になると行き帰りで2時間を要するということで、保護者から相当厳しい意見を出されたと聞いている。
通学手段が遠くなったらどうなるかということへの考えが欠けているのではと大変心配している。

(学校教育部長)

郊外地域で同様の意見をいただいた。
地域から学校がなくなることへの、地域の衰退の懸念の声、子どもたちの通学への負担が挙げられた。
今回、教育委員会としては、子どもたちのために、一定の学級規模を保っていきたいという考えで案を示したもの。
通学時間が長くなる懸念も当然あり、そうした点を一つひとつ解決して、良い方向に持っていければいいと考えている。
この案が決定事項ではなく、学校再編検討協議会の中で、意見を聞く会やこの懇談会などで出された意見などを提示し、検討していきたい。

▼参加者

決定事項でない、という言葉が最初に出てくるが、検討協議会で議論となると、地域が置いてきぼりになる気がする。
説明会や懇談会を開催しても、地域に返ってこない。
決まっていないと言いながら、住民にはその後の進捗状況が示されないまま進んでいくのでは、と不安を感じている。
進行状況については、それぞれの段階で今回と同じように下ろしたり、広報等で示していただきたい。

また、3案あると説明があったが、入り口は3つあるが出口が1つなのは3案とは言わないと思う。
中身が違うが出口が3つであれば3案だと思うが、3つ入り口を作っておいて「3案あるので、どれを選ぶか」で、出口がみんな一緒であれば、説明会として成り立たない方法を取っている。

	言葉がきついかもしれないが、騙されているというか、信頼あるやり方じゃないし、一度立ち止まって、網走市にふさわしい学校統廃合についてはどうか、ということを住民の声を十分に聞いた上で考え直す必要があるのでは、と思う。
(学校教育部長)	これまでの経過は、市の公式ホームページなどで公開する。進捗状況についても、中間報告を求める方が多く、報告の場を今後設けていきたい。 繰り返しになるが、3校案は決定したものではなく、「郊外地域の学校を一部残し、5校でいこう」等の考え方になるかもしれない。 今後どうやっていくかは、学校再編検討協議会で議論をいただきながら、方向性を定めていく。進捗状況についても、改めて別の機会に中間報告のようなものを設けていきたい。
▼参加者	検討協議会はオープンな場なのか。一般市民が傍聴をすることはできるのか。
(学校教育部長)	すでに2回行っており、3回目は9月末に開催予定。 傍聴できる会議であり、これまでも数十名の方が来ている。資料についても、傍聴の方に配布している。
▼参加者	どのように広報しているのか。
(学校教育部長)	ホームページのほか、新聞の折り込み、LINE等、各種SNSでも発信している。また、未就学児の保護者に向けても、保育所などにご協力いただき周知している。
▼参加者	市の広報には載らないのか。
(学校教育部長)	開催日程と周知期間、広報発行のタイミングの問題で載せられていない。
▼参加者	大事なことなので、市の広報に載せてほしい。

(学校教育部長)

時期が決まっていて間に合うものは広報で周知をさせていただく。

【テーマ（２）太陽光発電施設の適正な設置及び維持管理に関する
ガイドラインの策定について】

(質問意見なし)

【テーマ（３）どこバスについて】

▼参加者

どこバスは大変良いと思っているが、残念ながらこの地区は通っていない。
乗合タクシーが来ているかと思うが、乗合タクシーは四中が最後のバス停か。

(商工労働課長)

今年度も実証運行中。
降りる場所は四中が最後ではなく、登録した方の家まで送迎をしている。
高校生のスクールバスの接続もあり、四中で降りる方もいると聞いているが、家まで送迎もできる。

▼参加者

車を運転しなくなったときに利用したいと思う。
病院への通院をどうしているのかの話で、小清水からバスに乗り、ホームックまで行って、そこからどこバスで厚生病院や記念病院に行っている話を聞き、すごいお金がかかるようだった。

▼参加者

観光目的でのエリア拡大かと思うが、ここまで伸ばせるのであれば、地域住民の交通手段の確保のため、藻琴や北浜も運行エリアにできないか検討いただきたい。
高齢で運転ができなくなり免許返納した話をよく聞くと、近所や家族も忙しく頼みづらい。

(商工労働課長)

郊外地域については、片道1,000円で、郊外の自宅から街中まで、乗り合いタクシーを運行しており、利用料金も自己負担が安くすむので、使っていただければと思う。
どこバスのエリア拡大については、運行している網走バスに、地域から声があったことを伝える。

【その他】

▼参加者

(市長)

市長交際費について、何年か前に話題になり、公表している首長も多いと聞いた。

以前の会議でオープンにするという話は聞いてなかったが、現状はどうなっているか聞きたい。

お話をさせていただく機会をいただいたことに感謝申し上げます。

市長交際費について、今年度は約160万円を計上している。昨年以前は約337万円、平成19年は約400万円で、予算枠の中で使わせていただいている。

「市長が勝手に使っているんじゃないか」のような話が流布されているように聞こえるが、交際費は議会で議決を経て執行しており、勝手に使っているということではない。

自分が市長になる前から、同額337万円を執行してきたが、ここ1～2年で「多いんじゃないか」と議論が出たもの。

よく聞かれるのは、「知事より多いのでは」のような話だが、実は市長交際費は、市長個人が使うものだけではなく、例えば様々な会合に職員が参加する時に、それぞれの担当課が持つのではなく、会合費を一括で市長交際費で払うとして、枠を取っていたことがある。

例えば、韓国の蔚山広域市からお客様が来る時の飲食代やおもてなし代は市長交際費でお支払いをしているが、韓国から5人来た場合、各課で個別に予算をつけると、何人来るか分からず、予算が足りないで韓国の方々をおもてなししない、とはならないので、市長交際費という形で使わせていただいていることが従来からあった。

そのため、「あそこよりも多い」「ここよりも多い」のような話になっており、市全体の交際費を市長交際費から出していたというのが実態。

この点について、分かりにくいのではないかと市議会の議論があり、今年度は各課の予算に全部つけたもの。

例えば韓国のお客様のおもてなし、厚木市の子どもの来訪は企画調整課に、道路の関係の会合は建設港湾部に、とし、今年は160万円まで半額になっている。

オープンになっていないのでは、というお話については、昨年までは公表基準がなかったが、使い方に明確な基準を決めないと予算を超えてしまう可能性があるので、公表基準を決め、今はホームページで情報をオープンにしている。

ご覧いただければ、使い方がお分かりいただけると思う。

ここ1～2年、そうした話題がずっとあったのが実態。また何か疑問があれば、質問をいただければ、お話をさせていただく。

▼参加者

議会や住民の声があり、お金を使う立場として大切な税金を明らかにすることはやっぱり大事だと思っていた。

自分たちの生活で言うと、年金受給者や個人事業者は、月に5、6万で生活しており、使いすぎではという見方もあった。

市長なので、社会的な付き合いもあるのだろうが、住民の生活実態や思いを受け止めながら運営にあたっていたきたい。

(市長)

ご意見いただいたことに感謝する。

札幌市並みに交際費が多い、知事より多いというのはあり得ないと思っている。

網走では、部長出席の会合費は市長交際費から出ており、各課の個別予算ではなく、市長交際費で一元管理をして運営をしていた流れだったが、各課予算に分けて、様々な事業をそこで対応していこうということ。

住民目線という話があったが、政策の観点もあり、友好都市等からの訪問時に、来訪いただいた方に会費をいただく、割り勘にする等の対応は、おもてなしをする立場にとっては難しいもので、交際費という予算の中で対応させていただくことが適切ではないかと思っている。

住民目線では、遠慮した方がいいのでは、と話があるが、政策の判断だと思っている。

住民目線という観点から、どのように交流をするのがいいか、意見があったことを受け止めたい。

改めて、お話をさせていただいたことに感謝申し上げる。